

柳原義達記念館の開館

去る11月1日のリニューアル開館にあわせて柳原義達記念館がオープンしました。記念館は美術館東側の増築部分1階に位置し広さは約500㎡、ロビーを中央に大小二つの展示室で構成されています。開館当初は、柳原義達の初期作から近作まで彫刻43点と素描22点を展示しましたが、好天時に自然光線を取り入れた照明が行われている展示室は、彫刻展示を想定して設計されたこともあって、これまでの当館展示室とは異なり、開放的で明るい雰囲気を持つことになりました。

柳原さんは日本の具象彫刻界を代表する作家として、高い評価を得ていることはよく知られています。その柳原さんの作品を常設展示する記念館が三重の美術館に開設されたことには、いくつかの意義あるように思われます。

その一つは日本近現代彫刻史研究上の意義です。柳原さんは、佐藤忠良さん、舟越保武さんらとともに、日本の具象彫刻を一つの頂点に引き上げた作家と言われています。佐藤さんは、出身県の宮城県美術館に記念館が開設されています。舟越さんは、先年開館した岩手県立美術館に松本竣介・舟越保武展示室がつくられました。

三重に柳原義達記念館が開館したことによって、戦後日本の具象彫刻界を代表する三彫刻家の作品が常設展示される公的施設が出揃ったこととなります。このことは、戦前から戦後に至る日本の具象彫刻の展開を跡づける上で、大きな意義を持つと思われます。今後、こうした記念館の活動を通じてこの分野の研究が更に深まることになるでしょう。

また、柳原義達記念館は当館にとっても大きな意義を持っています。当館のコレクション展示は、従来はスペースの制約から平面作品を中心に構成されてきました。立体作品は展示室の中央、あるいはロビー・ホール等に少数の作品が展示されるだけでした。しかし、柳原義達記念館ができたことによって、来館者の方々が常に多くの彫刻作品と接することができるようになりました。

彫刻は、絵画とともに造形芸術の重要な分野です。しかし、絵画に比べると、彫刻を疎遠に感じる人々が実際には多いようです。柳原義達記念館が、彫刻という造形の魅力を一人でも多くの方に発見していただける場になれば、関係者の一人としてこれにすぐる喜びはありません。(M)



柳原義達記念館 展示風景

